

暖冬に伴う麦類の栽培管理技術対策について

令和2年1月29日
埼玉県農林部

令和2年産麦類は、11月下旬のまとまった降雨により、畑に入れなかったり、播き直したりしたことから、平年に比べ播種作業が大きく遅れました。

11月・12月の月平均気温はそれぞれ平年より1℃、1月に入っても上旬、中旬は平年より2℃以上高く推移しました。このため、11月中旬までに播種した麦類は、葉位の進展、莖数も著しく多く、過繁茂気味に生育しています。さらに11月下旬の降雨で肥料が流亡した懸念があり、11月中旬までに播種した麦類や播き直しの麦類では肥料成分の不足が考えられます。

暖冬により生育が促進されると、播種が遅れた麦類の生育遅れを取り戻すことが期待される一方、適期播種の麦の幼穂分化が早まり凍霜害の発生が懸念されるとともに、春先以降、倒伏等による収量品質の低下が心配されます。

については、暖冬対策として以下の技術対策資料を作成したので、参考にしてください。

1 踏圧（麦踏み）

徒長防止（倒伏防止）、耐寒性の向上をねらい、莖立期前までに2～3週間の間隔を空けた踏圧を実施しましょう。

3枚目の葉が出ていれば麦踏みが可能ですが、土壌水分が高くローラーに土がつくような場合は作業を避けてください。

2 雑草防除

雑草の発生が多くなりやすいので、良くほ場を観察して雑草が発生し始めたら種類と葉令を確認し、適期に莖葉処理除草剤を散布してください。

3 追肥

11月中旬までに播種した麦類や播き直しの麦類では、生育の促進による肥料成分の吸収や11月下旬の降雨による流亡などで肥料不足が懸念されます。

生育ステージや生育量に応じた適正な追肥を実施しましょう。基肥一発型施肥についても、生育状態によって追肥を判断してください。

4 排水対策

暖冬時は雪も含めて降水量が多い傾向なので、踏圧で排水路が埋もれていないか、外部の排水路としっかり連結されているか等、明きよの補修、管理をしっかり実施しましょう。